

★時

2011年4月29日(金)～5月2日(日)

★場所

富山県/室堂～劔沢～平蔵谷～劔岳

★ルート

28日

大谷P→扇沢P(泊)

29日

扇沢P→室堂→雷鳥平→劔御前小屋→劔沢野営地

30日

劔沢野営地→平蔵谷→2900mあたりで撤退→劔山荘

1日

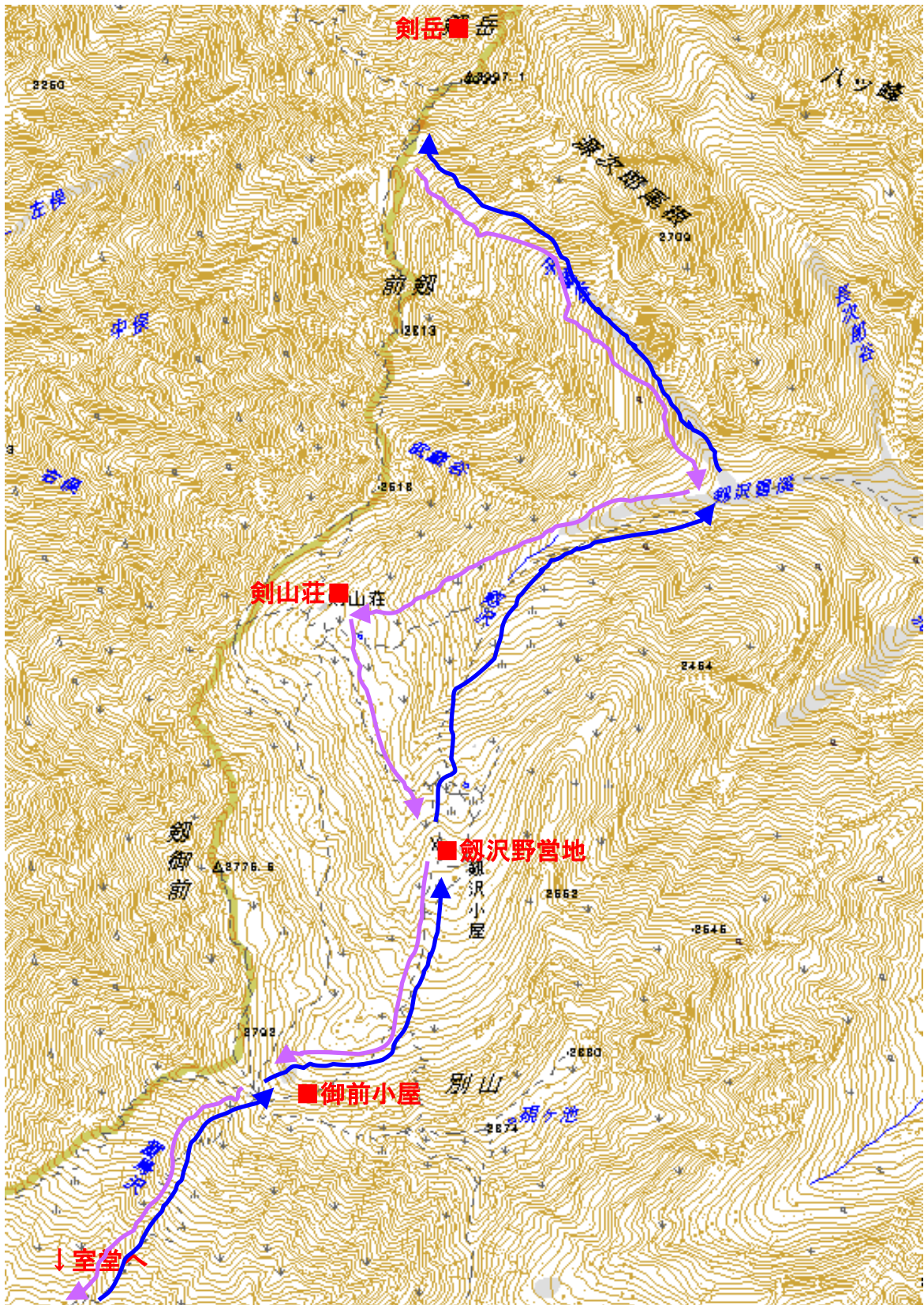
劔山荘→劔沢野営地→室堂→扇沢P→大谷P

★参加者

迫さん	リーダー
新海さん	サブリーダー
谷内さん	
福田さん	
筆者	

★概要

今年の5月連休前半の北ア北部は、二つ玉低気圧の発生により大荒れの天気だった。高層天気予報および週間天気予報から大荒れを予想していなかった我々は、フライシートを持ってこないなど失策を重ね、しんどい山行を経験することとなった。



他メンバーの回想を～～以下に挿入する。

★0 日目

大谷 P に 21 時集合。扇沢 P を目指す。

筆者は谷嶋さんの車に乗る。車内のメンバーは谷嶋さん、迫さん、谷内さん、筆者。現代社会の諸問題と女性心理について口角泡を飛ばす。途中から新海さんが谷内さんと交代して乗り込んでくる。谷内さんは苦笑いしながら女性 3 人乗ったハーレム車へ移動。そこから車内では中森明菜の魅力について口角泡を飛ばすが、80 年代生まれの筆者は話に入らず。

扇沢 P でテントを張って就寝。新海さんが修行のためにノーマット、夏用シュラフにトライするがほとんど眠れず。

★1 日目

快晴。稜線には雲。

7:30 扇沢駅から色々な物を持ち繋いで室堂に行く。運賃が高い。しかし、駅の設備が綺麗なのでよしとしよう。

9:00 室堂駅にて、谷内さんが忘れ物(アイゼン)をしたことに気付く。なんとなく雰囲気流されて(本人談)扇沢まで取りに帰る。我々に追いつくのは結局 16 時頃になる。

同じく室堂駅にて山スキー班と合流。

駅の外は曇りで雪がちらつく。30 分程度歩いて 10:00 雷鳥平へ。

立山班は雷鳥平でテント設営。我々劔班はそのまま劔御前小屋へ 2 時間の登り。

斜面を登り切ったあたりから非常に強い吹雪で顔があげられない。なんじゃこりゃ～、5m 先も見えへんやんけ～、と小屋に逃げ込む。劔沢まで旗がたっているよ、と小屋の人に教えられて、いざ出発してみるものの、なんじゃこりゃ～、1 本目の旗も見つからんやんけ～、ちよっつ福田っつんでおまえだけゴーグル持ってきてんねん貸せや～、いや勘弁してください、と小屋に引き返す。

小屋の中で作戦会議を開く。筆者はこのまま小屋泊を期待していたが、16 時までには谷内さんが追いついてくれれば出発することになる。意気消沈。

果たして、谷内さんが 15 時頃追いついてきた。嵐で全身ずぶ濡れだった。

小屋で谷内さんを待っている時、冗談で、「谷内さんが追いついてきたら『おい！ すぐ出発するぞ！』と言って、びっくりする顔見ようぜ」と話していたので、「おい！ すぐ出発するぞ！」と誰かが言った。その時の谷内さんは非常に精悍な顔つきで「もちろんです」と答えたので、誰も冗談だとは言えなかった。谷内さんは休憩無しで劔沢へ向かう羽目になった。谷内さんがびっくり顔していたら、そこで休憩が入ったと思う。非常に悪いことをした。

吹雪が弱くなっていたので、今度は 1 本目の旗を見つける。斜面を下り始めると風が弱まり、なんなく 17:30 劔沢野営地へ到着。その日の劔沢には 5 パーティーいたと記憶している。

テントを張り、風よけの雪壁をつくる。

夕食はアルファ米にカレー。スープ。デザートにフルーチェ。

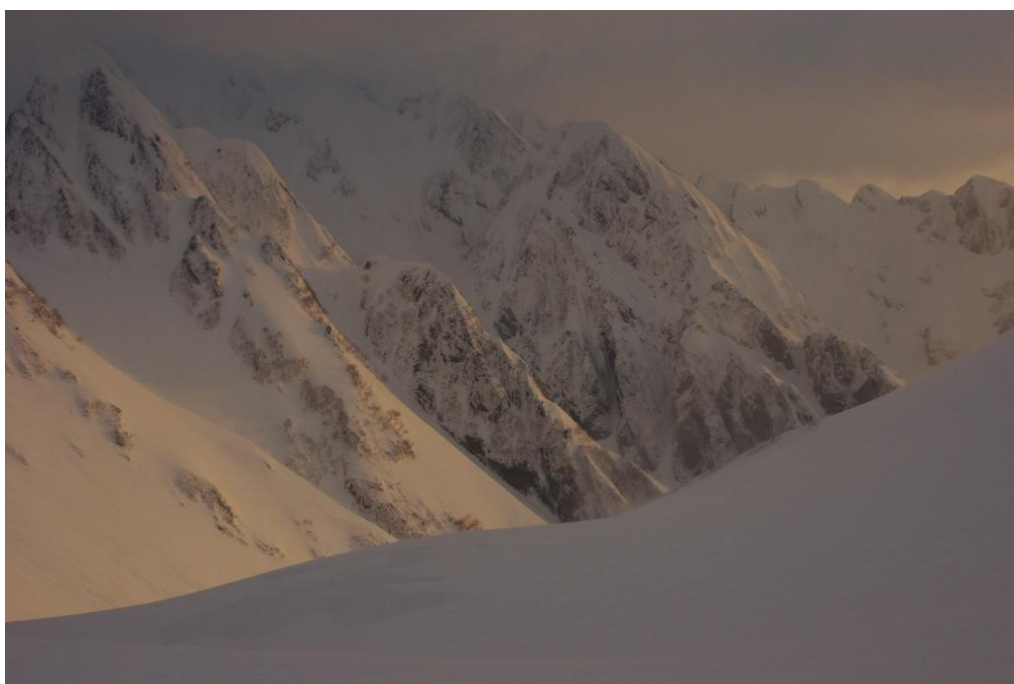
食後は男 5 人で女心についてしっとりトーク。8 時には就寝。こまかい雪が降り続く、ときおり風があるが、明日の好天が予想された(後で勘違いだったことを思い知らされる)、暖かい。

★2 日目

曇り。4 時に起床。朝食はラーメンとリゾット。朝からずいぶんな量を食べた。ただ、そのおかげで体力がずいぶん持った気がする。

6:00 劔沢を下降する。視界は良い。劔山頂とハッ峰がよく見える。

劔沢はスケールが大きい。前日の雪が表層に積もっているが、雪面は締まっていて、雪崩の心配はなさそう(後で勘違いだったことを思い知らされる)。



7:00 平蔵谷の下部に着く。源次郎尾根を2パーティーほど登っていく。

曇りだが視界は良い。谷の上部まで見渡せる。登り始める。前半は雪は脛くらいまでの深さ。小岩程度のデブリが散乱している。後半から太ももまで雪に落ちようになり、ラッセルを強いられる。途中、源次郎尾根側から小さな雪崩があった。

11:20 平蔵谷をのぼりつめたところ(コル)で昼過ぎ。雷鳥平の谷嶋さんに無線で連絡する。これがこの日最後の連絡になった。

谷の終わりにはカニのタテバイがそびえる。稜線上の風音がものすごい。後ろを振り返るといつの間にか吹雪いている、風が強く、止まっていると震えるほど寒い。

新海さんがトップで登る。ロープをたらして後続が登る。もう少し稜線上を進むと山頂だが、風が強すぎる。12:30 撤退。



~~~~~

カニのタテバイにて。

新海さんが少し登ってみて先を偵察。その結果いけそうならば行く、また、天気の状態も観察する。ということで、新海さんがロープを引いて登る。

1ピッチ上がって様子を見る。「どうしよう」で迷っているのに、迫さんが続けてみるが、先は行けそう。ただ風雪が強くなってきているのが心配だった。続けて3人がフィックスしたロープで登ってくる。

3人目が着いた頃は空が真っ暗。。。マズイ、迫さん、新海さんで話して、ルートとしては分かるし行けるかもしれないが、天気がヤバイ。と判断して引き返すことにする。

そこから懸垂下降の準備。迫が懸垂下降に入ろうとしたとたん、ピカッと光る。必然、皆あせる。新海さんも若手3人を置いて先に降りたい気持ちをおさえつつ、最後に懸垂して降りる。

迫さんがロープを片付けている間に、4名は急いで下山開始させる。

コルから出会い方向に雷が動いていったが、そのうち風向きが逆になりその雷雲が戻ってきて、再び頭上で鳴り出した。

~~~~~

平蔵谷を下り始めてすぐ、大粒のミゾレが振り出し、雷鳴がとどろく。非常に近い。遮蔽物が何もないので、ミゾレの降る中、雪面に這いつくばってやりすごす。その後、10分歩いては20分這いつくばる、という繰り返し。筆者はソフトシェルというのを着ていたのに、全身ずぶ濡れになる。すさまじい風にさらされ、震えで歯の根が合わない。

谷の下りでは、先行する筆者&新海さんと、残り3人の距離がずいぶん空いていた。そんな時、平蔵谷の西側斜面から大きな雪崩があった。雨が雷の音で雪庇が崩れたのだろうか。幸い巻き込まれなかったが、下るにつれて自動車サイズのデブリを見るにつけ、ぞっとしなかった。デブリを巻きながら降りる。

平蔵谷を降り切ったところで作戦会議。風が強いので、5人がツェルト(2~3人用だった)の端を握って身を寄せ合う。筆者は震えが止まらず喋れない。

5人の歩行スピードはずいぶん遅くなっていた。もう雷は無視しようと思った。落雷を避けながら歩いては体力が持たない。

誰かが歩けなくなる前にテントに到達できるか？でもフライシートは無いのだ。この雨の中、濡れずに残っている荷物は何があるだろうか？

それとも体体温存のためにビパークするか？劔沢の真ん中で雪崩に会うリスクはどのくらいだろうか？それに明日はこの嵐は止むのか？

最終的に、劔山荘へ避難することにした。前日、劔沢のテントから小屋の明かりが見えていたので、営業しているとわかっていただけから。劔山荘に着いたのは16時頃だった。

~~~~~

小屋についてから。

小屋に入ってから暫くは、皆衣類を乾かし暖を取ることに夢中だった。新海さんはファンヒータの前から動かず・・・おかげで迫さんは乾燥室に入れず・・・

携帯電話、無線機で後方部隊との連絡を試みたが通じなかった。

小屋には衛星電話があったので、翌日連絡できた。

~~~~~

★3日目

6:50 発。吹雪だが視界あり。風が強い。前日より強い。耐風姿勢が間に合わず時々なぎ倒される。顔に吹雪があたって痛い。

7:50 劔沢のテント場には別件で県警が来ていた。テントを撤収して(風が強くてポールが曲がった)、県警のトレーズをたどって9:30 御前小屋へ。。

小屋には勅使河原さん、片柳さん、毛塚さんが迎えに来ていた。暖かい飲み物と食べ物を頂く。早朝に雷鳥平から小屋まで上がってきて、それから待っていたそう。ご心配をおかけしました。

雷鳥平へと斜面を下り始めると風が無くなる。雷鳥平で皆さまと再開して暖かい飲み物と食べ物(トマト鍋)を頂く。

予定を繰り上げて下山。その日のうちに宇都宮着。

★感想

装備面では、剣岳アタック時に合羽をテントに置いていったのがいけなかった。

また、ツェルトは個人装備で持つべきだった。雷で雪面にくぎ付けになった時、濡れるのをいくらかは防げた。

体力面では、テント場まで歩く余力はあった。多めの朝食とこまめに行動食をとったのがよかった。

ただ、深刻な低体温症にならずに済んだのは、気温が高かったからに他ならない。気温が夕方にかけてもっと下がっていたらどうなっていたかわからない。

あの強風で稜線に出たら姿勢を崩して滑落していた可能性がある。

耐風姿勢、風向きの予測が甘いと思った。

剣山荘への道を正確に地図読みした迫リーダー(地図を見ても頭に入ってこない)、大声で皆を鼓舞しつつ指示を出していた新海サブリーダー(声を出すのが一番しんどい)には感謝の言葉もありません。

~~~~~

- ・如何にして濡れずに歩くか、如何にしてザックの中身を濡らさないようにするか、工夫の余地あり。
- ・ツェルトは個人装備で持とう
- ・替えの下着、ダウン上下は持参し絶対に濡らさないようにしておこう

~~~~~